ふくしま県人会だより

第４８号（設立５０周年記念号）

令和５年１０月　発行

福島県人会北海道連合会

目　　次

巻頭あいさつ

福島県人会北海道連合会　会長　近藤　康弘 1

ごあいさつ

福島県知事　内堀　雅雄 1

設立５０周年に寄せて

宮城県人会北海道連合会　会長　高橋　三郎 2

余市町福島県人会　会長　水野　隆志 2

福島県人会北海道連合会５０年のあゆみ 3

各地区福島県人会会長あいさつ

札幌福島県人会　会長　船山　一 7

函館福島県人会　会長　小山　直子 7

旭川福島県人会　会長　佐藤　貞夫 8

別海町福島県人会　会長　白石　政司 8

美幌町福島県人会　副会長　前崎　孝子 9

千歳福島県人会　会長　五島　洋子 9

苫小牧福島県人会　会長　渡辺　健治 10

連合会の活動 11

福島県人会北海道連合会総会開催状況 13

会員通信

「県人会の近況について」

札幌福島県人会　事務局長　大山　洵 14

「モルックを通じて地域に笑顔を」

函館福島県人会　会員　橘高　由香 14

「旭川宮城・福島県人会合同懇親会開催」

旭川福島県人会　幹事長　圓谷　清 15

「第５１回北海道連合会総会を終えて」

別海町福島県人会　事務局長　大内　照雄 15

「美幌町福島県人会フェスティバル開催について」

美幌町福島県人会　幹事長　佐藤　登 16

「連合会長表彰を受彰して」

美幌町福島県人会　幹事　吉田　良子 16

「ふるさと福島」

千歳福島県人会　監査　上田　政則 17

「現在の私」

千歳福島県人会　会員　齋藤　久美夫 18

「会津藩士の曾祖父と私」

苫小牧福島県人会　理事　角田　博文 18

「親子三代県人会に加入して」

苫小牧福島県人会　理事　岸本　和香 19

ＯＢからのお便り

末永　弘（第 13 代所長　H9.4～H12.3 在籍） 20

安部　宏宣（H24.4～H27.3 在籍） 21

菅野　英二（第 19 代主幹兼次長　R2.4～R5.3 在籍）.... 21

新会員の紹介 22

新任職員紹介 22

福島県からのお知らせ 23

福島県人会北海道連合会紹介チラシ 24

福島県人会北海道連合会規約 25

福島県人会北海道連合会　役員一覧 26

道内福島県人会設立状況 26

福島県人会北海道連合会　歴代役員一覧 27

巻頭あいさつ

福島県人会北海道連合会
会長　近藤　康弘

福島県人会北海道連合会は、昭和四十八年五月に設立され、今年五十周年を迎えました。道内各地の会員の皆様、母県である福島県の関係の方々、そしてこれまで歴史を受け継いでこられた先人の皆様の御努力、協力の賜物と感謝申し上げます。

五十周年に当たり、振り返りますと福島県は大きな災害に幾度も見舞われました。特に、平成二十三年三月に発生した東日本大震災によって多くの尊い命が失われ、震災に伴う原発事故により故郷に住めなくなり、北海道を始め県外に避難を余儀なくされた方も大勢いらっしゃいます。さらに新型コロナウイルスの流行が追い打ちを掛けました。福島県のみならず世界中の人々の生活を一変させるほどの大きな影響を与え、連合会としても母県訪問の中止や各県人会活動の休止、連合会総会を書面開催とせざるを得ないなど、会員相互や母県との交流の機会が閉ざされてしまいました。

連合会は、福島県の震災からの復興に向けて、各県人会から寄付や支援を募るなど出来る限りの支援活動をしてまいりました。会員の皆様も故郷の復興に心を寄せ、個々に様々な支援をされていました。また、新型コロナウイルスの制限緩和後には、各県人会の活動が再開され、令和五年五月には美幌町及び別海町県人会の御尽力により、第五十一回総会及び懇親交流会を四年ぶりに開催することができました。会員や御来賓の皆様と楽しいときを過ごす中、これまで培ってきた絆の温かさや強さを感じ、どのような困難なことがあっても、この絆を引き継いでまいりたいと改めて決意したところであります。

震災から十二年が経ち、福島県の震災からの復興は着実に進んでおりますが、まだまだ多くの課題があります。各県人会の皆様は、変わらぬ福島県への御支援と情報の発信に今後とも御協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、設立五十周年の挨拶といたします。

福島県人会北海道連合会の設立五十周年に寄せて

福島県知事　内堀　雅雄

福島県人会北海道連合会におかれましては、昭和四十八年の発足から記念すべき五十周年を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。

貴連合会が、半世紀の長きに渡り、ふるさとを同じくする方々の心のよりどころとして、会員相互の交流を深められておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、心から敬意を表します。

さらに、会員の皆様におかれましては、発足当初より、当県の情報発信や県産品のＰＲなどの場面でも、格別のお力添えを賜りまして厚く御礼申し上げます。

また、近年、新型コロナウイルス感染症の影響により対面開催が困難となっていた貴連合会総会が、本年五月には網走市において四年ぶりに盛大に開催されました。皆様の結束の強さを改めて感じることができ、大変うれしく思っております。

東日本大震災と原発事故から十二年半が経過いたしました。この間、皆様を始めとする国内外からの温かい御支援と県民の皆様の懸命な御努力により、本県は着実に復興の歩みを進めております。

昨年は、絶景の秘境路線であるＪＲ只見線が豪雨災害を乗り越えて十一年振りに全線で運転を再開したほか、県内への移住者数や新規就農者数が過去最多を記録するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となって現れております。

一方で、震災と原発事故という前例のない複合災害からの復興は、いまだ途上にあり、今後も長い戦いが続きます。

県といたしましては、県人会の皆様を始め、福島県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせ、福島県総合計画に掲げる「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれるふくしま」の実現に向けて、県民の皆様が復興を実感し、未来に夢や希望を持つことができるよう、様々な施策を一つ一つ着実に実現させてまいりますので、皆様には一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、福島県人会北海道連合会のますますの発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの挨拶といたします。

設立五十周年に寄せて

宮城県人会北海道連合会
会長　高橋　三郎

福島県人会北海道連合会設立五十周年おめでとうございます。

この間連合会運営に携わってこられた役員の皆様、会員の皆様のご努力に対し敬意を表するものであります。また直近の「ふくしま県人会だより」を拝見し、県事務所と一体になった各地区の活動や「全国うつくしま県人会交流会」の様子を羨ましく読ませていただきました。

宮城県人会北海道連合会では、昨年前会長の中村が逝去し、私が後任になりました。私の母は伊達郡飯野町（現福島市）の出身ですので、福島は子供の頃よく訪ねた記憶があり、懐かしい思い出の地です。私は小さかったので覚えていませんが、松川事件の時、飯野にいて松川へ出る汽車が不通になったと姉に聞いたことがあります。

先日札幌宮城県人会では、最初に屯田兵村が置かれた札幌市琴似の屯田兵屋を見学に行きました。琴似屯田兵の四分の三は会津藩と仙台藩亘理伊達家の旧藩士だそうで、開拓の始めを福島県と宮城県出身者で担ってきた事が分かります。近くの琴似神社には会津藩祖保科正之公と亘理伊達家祖伊達成実公が祀られており、屯田兵とその子孫の心の拠り所になっていました。

【琴似屯田兵村兵屋跡】

宮城県人会ではコロナの影響で活動ができない時期が続きましたが、昨年から徐々に活動を再開し、札幌でも四月にやっと総会を開きました。会員減少のため懇親会を福島県さんと合同で行った地区もあります。コロナもまだ油断できず、会員の減少・高齢化等共通の課題を抱えている中、両県が繋がりを深め県人会活動を活発化させていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

結びに当たり、福島県人会北海道連合会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り致します。

余市町福島県人会
会長　水野　隆志

福島県人会北海道連合会設立五十周年、誠におめでとうございます。

道内各地の福島県人会と会員の交流を振り返る時、連合会の設立は、扇の要を得たごとくであり、この五十周年の歳月の中で果たした役割は大変に意義深く大きなものでありました。

余市の福島県人会も一九八五年（昭和六〇年）の設立以来、多大なご支援をいただいて参りました事に深く感謝申し上げます。

【開村記念碑】

福島県の出身地と移り住んだ北海道の地と、代を重ねて道産子（どさんこ）となりましても、二つのふるさとを同郷の縁で結び、交流を深め合う連合会の活動が、今後共末永く発展される事を祈念申し上げ、連合会の皆様のご努力に敬意を表すると共に、深く感謝申し上げます。

福島県人会北海道連合会
五十年のあゆみ

福島県人会北海道連合会は、昭和四十八年五月に設立総会を開催し、今年で設立五十周年を迎えました。

【第１回連合会総会】
（於　函館市芳明荘　昭48.5.7）

初代連合会会長は、当時の札幌福島県人会会長の高田富与氏。同氏は福島県いわき市出身で、札幌市の第五代市長を務めた人物でもありました。

連合会設立当初の様子が、「福島県北海道事務所　三十年のあゆみ」に記載されていますので、その一部を抜粋して、ご紹介します。

「昭和四十七年五月十三日に、札幌市第一ホテルに於いて、道内各県人会長会議を開催し、その席で、連合会結成について提案され、全員一致で承認された。

同年の八月八日に、福島県北海道事務所、開設二十周年式典の折り、設立総会の具体的な準備打合せが進められた。

翌四十八年五月七日に、函館市湯川温泉芳明荘において、道内十一県人会より代表六十三名が出席し、県より知事代理として折笠副知事、地元より函館市長等が出席し、盛大に設立総会が開催された。

【第２回総会あいさつ　高田初代会長】
（於　札幌市都市会館　昭49.5.11）

初代連合会会長は、札幌福島県人会長の高田富與氏が決定し、副会長には、函館の渡辺祐之介氏（現在の連合会長）と旭川の木幡滋郎氏が選任された。

席上で、折笠副知事より各県人会に、県旗一流づつ授与され、来賓祝辞を頂き、次年度総会開催地は札幌で行うことに決定し、第一回の総会は終了した。」

連合会設立以来、五十年に渡り、各地区県人会の活動はもちろんのこと、連合会総会の開催や母県訪問の実施など、様々な活動が行われてきました。

当時の写真や記録から、その歩みを振り返ってみたいと思います。

【第６回総会　アトラクション（小樽海洋少年団）】
（於　小樽国際ホテル　昭53.6.17）

昭和四十八年には、連合会として初めて母県訪問が実施されました。各地区から三十五名が参加し、会津若松市などを訪れました。

以後、三年に一回のペースで、母県との交流が続いています。

【会津若松市内を観光する母県訪問団】
（於　会津若松市飯盛山　昭54.10.18）

【第１０回総会あいさつ　松平知事】
（於　上川町層雲峡ホテル大雪　昭57.5.22）

平成十二年一月には、「ふくしま県人会だより」創刊号が発行されました。

会員の皆さまから寄せられた会員通信や母県動向などを紹介し、本誌で第四十八号を迎えます。

ここでは、過去の発行号から、懐かしい記事や写真を抜粋して、ご紹介します。

ふくしま県人会だより

創刊号
平成12年1月
編集発行
福島県人会
北海道連合会

発刊のごあいさつ

会長　上田　小八重

本年度の総会で、会長の任を仰せつかりました。浅学、非才ではありますが、伝統ある連合会の栄誉とともに努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

このたびの「ふくしま県人会だより」発行は、会員の皆様とよりいっそうの親睦を深め、良き交流の場となることと存じます。

年一回の総会・懇親会は、ご出席の佐藤知事夫妻を囲み、心行くまでの交流が重ねられ、明日への活力溢れるものでありました。

母県もますます発展致しております。

十月三日は、天皇・皇后ご臨席のもとに、「全国豊かな海づくり大会」が、相馬市松川浦漁港で開かれ、長谷川副会長、末永県事務所長とともに出席いたし、県漁業の豊かさにも触れることができました。知事のご挨拶は、「豊かな海を守り育てるには、森づくり、川づくりも重要であることを、県内外に発信したい。」でありました。

二〇〇一年には、「うつくしま未来博」が須賀川市で開催されます。この時には、母県訪問団として皆様と参加いたしたいと存じます。

県から送られてくる「月刊ふくしま」は、郷土の細かな活動を伝えてくれます。各会員ご回覧の上、発展してやまない母県の姿を、懐かしんで頂きたいと存じます。初代会長は、「県人会とは、へその緒が繋がっている仲間」と申しました。どんな時でも、この「集団」の力強さと温もりは、乗り切っていける糧となり、力となって行くものです。私はそんな集団の一人であることに誇りを持っております。

終わりに、長い間、本連合会の副会長としてご尽力くださった柳田三郎さんのご急逝に、心からご冥福をお祈りさせて戴きます。

【創刊号　発刊のごあいさつ（平 12.1 月発行）】

各県人会だより

故郷という絆で団結の活動

美幌県人会の創立は昭和五十年だが、年間の行事は総会(新年会)、花見会の二回の為、会員間の交流も少なかった。

平成四年、現顧問橋本前会長の就任に依り活発な活動を指導され連合会に加入すると共に、「美幌和牛まつり」への参加、「ふるさと祭り」への県人会として出店等を実施する事になりました。

七月の第三日曜日は、近隣よりたくさんの方が来られ、その日だけは美幌の人口が倍になると言われる恒例の

「美幌観光和牛まつり」。網走川河畔公園で色々なイベントが実施されている中、会員が集り、炭火で焼いた美幌和牛に舌鼓をうち生ビールを飲み交わす、これまた楽しくいつの間にか故郷なまりが出てきます。

町民参加による手作りの「ふるさと祭り」への出店。これは県人会として一大イベント。九月四日の宵祭り、五、六日の本祭りと三日間の出店。前日の準備から七日の後片付けまで延べ五日間すべてボランティアに依ります。利益は種々行事の一部助成と連合会総会参加の為の大型バス賃にしています。

写真で見るように（前末永所長北海道事務所勤務になられた年）大型テント三張り、一張りはお客の休憩する所です。各出店中一番勢いがあり、元気な声での客引きが「ふるさと祭り」で、すっかり有名になりました。期間中は楽しくもあり苦しくもありますが、後日慰労を兼ねての反省会が会員相互の親睦を一層深くします。

平成十年には連合会総会を担当させていただきました。その節は各県人会、県事務所所長以下職員の皆様のお陰で盛会に終了、とても忘れる事の出来ない思い出です。

（美幌県人会）

【　第2号より（平 12.8 月発行）　】

各県人会だより

念願の県人会旗完成を祝う

苫小牧では平成十年の市制五十周年記念を機に「苫小牧東北県人会連合会」が設立されました。この会設立によってその初年度は、港まつり協賛郷土芸能カーニバルで、それぞれの県の芸能を披露、平成十一年からは港まつり中央会場において、「東北六県物産即売店」を各県人会が出店し、市民の好評を得ています。このように県人会が協力しつつ親睦を深め合っていますが、設立年と十一年の二年連続で、各県人会総会を同一日同一会場で行い、引き続いて約四百名参加の盛大な合同懇親会を行ってきました。又明年もこのスタイルで行うことになっています。

ところで、会場のホテル中央ステージには、各県人会旗がならべられるのですが、私達福島県人会は肝心の「県人会旗」が無く、やむなく北海道事務所から贈られた県の旗をよそから借りた竿頭をつけて並べて凌いで参りました。

わが県人会旗をステージに並べられない無念さを味わいたくないと、役員会で協議した結果、役員が特別の努力をすることと、会員のご協力を頂いて資金調達をして、県人会旗を製作することにしました。

この度、福島県旗同様のオレンジ色の正絹生地に白銀色糸で刺繍した苫小牧県人会マークがくっきり浮かび出た県人会旗が出来上りました。

その完成と、今年も港まつりでの福島もも完売の喜びも併せて「県人会夏の集い」を八月二十五日開催し、多数の会員と家族も集まって完成を祝いました。

なお、今年も福島もも販売会場で県人会入会募集をし、六名の方が入会しました。まさにももが取り持つ縁でした。（苫小牧福島県人会　神野　修）

【　第4号より（平 13.9 月発行）　】

【　第 12 号より（平 17.8 月発行）　】
「美幌町福島県人会から…」

【　第７号より（平 15.1 月発行）　】
「札幌福島県人会創立 85 周年記念観楓会の実施について」

【　第 30 号より（平 26.11 月発行）　】
「道東三地区福島県人会　合同観楓会開催」

【　第 22 号より（平 22.8 月発行）　】
「第 38 回連合会総会」

平成二十三年三月に発生した東日本大震災では、全道各地の福島県人会の皆さまが母県を想い、温かい支援の輪が広がりました。

【　第39号より（平31.1月発行）　】
「新年を迎えて」
（千歳福島県人会の皆さん）

【　第37号より（平30.1月発行）　】
「29年度観楓会開催」
（旭川福島県人会の皆さん）

3・11からの日々の思いと見える明日を

会長　熊坂成剛

神は私達にどんな警告を与えようとしたのだろうか、私たちはどのような啓示をそこから受け取ればよいのだろうか。

マスメディアから東日本大震災や福島原発事故をみると、今でもその衝撃は息をのみ言葉を失うほどであります。被災者の方々にとっては自分の力で対応しきれず、ただ時の流れを待つ人もいるかも知れません。加えて、放射能被害は重大だと思われます。破壊し押し流す地震津波より形をそのまま残しながらも、何十年も続くであろう放射能被害はより一層深刻なものとなることは目に見えています。人間の犯した罪科ならば頭を垂れて謝るだろうが、いま身の回りに起きていることを乗り越えねば、自分の歴史も家の歴史も私達をはぐくみ育ててくれた福島の歴史風土は帰らない。

私達を生み育ててくれた土地と大地を再生、復興しなければ福島県は福島県として存在しないことになってしまうと思うからです。

道内の会員や関係者、福島県を心配する人々の義援金は、県の災害対策本部へ送られました。これらは復興の礎石の一つとなるでしょう。多くの皆様に感謝申し上げます。北海道各福島県人会は完全復旧を目指している福島の人たちの一歩前進を後押ししましょう。それが県人会の務めではないでしょうか。福島や東北へ旅するもよし、県産品を購入消費するも一つでしょう。「ふるさと納税」で応援することだって良いではないでしょうか。親せき友人に知人に手紙・電話による励ましなど、今出来ること明日へ繋げる支援を県人会はしようではありませんか。道内各地に避難して来た県人の方々へ多方面から温かい言葉、励ましとねぎらいをかけてゆきましょう。

来年の県人会総会は復興への応援歌として行きましょう、皆様一層のご支援をお願いいたします。

【　第24号より（平23.9月発行）　】

【　第25号より（平24.1月発行）　】
「母県からの避難者との懇談会を開催」
（函館福島県人会の皆さん）

【　第24号より（平23.9月発行）　】
「風評被害に負けないぞ！今年も好評　福島のもも」
（苫小牧福島県人会の皆さん）

各地区福島県人会 会長あいさつ

札幌福島県人会

会長　船山　一

福島県人会北海道連合会が、設立五十周年を迎えられたことは、誠にうれしく思います。私達の諸先輩の方々が、この北海道の地に移住し、幾多の困難と厳しい生活の中に、希望を捨てることなく、生きる望みを堅固に持ち続け、開拓精神を抱き、今日に至るまで努力を惜しむことなく、年月を重ねてこられた賜と感謝を申し上げる次第でございます。

そして、現在この北海道の地において、県人会の皆様が、更に絆を強くし、結束することにより、益々の発展と飛躍を誓いたいものであります。

さて、第五十一回を迎え、開催された北海道連合会総会は、美幌町県人会、別海町県人会の会員の皆様が、和気藹々の中にも会長さんを中心に盛大且つ思い出深い有意義な総会でありました。会場を提供された、ホテル網走湖荘の従業員、スタッフの接客マナーもよく、心に残るひとときでありました。母県からは、公務ご多忙の折、副知事鈴木正晃様をはじめ、県議会副議長様、その他の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございました。また、平成三〇年に実施した第十七回母県訪問の折には、福島県庁内において知事様、副知事様の心温まる歓迎を賜り、会津訪問では歴史の重みを感じ、参加者一同、喜多方ラーメンを堪能し、帰路につきました。この場を借りまして御礼の挨拶とさせて頂きます。

【母県訪問で訪れた鶴ヶ城にて】

二〇二四年（令和六年）には、第五十二回北海道連合会総会を千歳県人会、札幌県人会が、相協力して開催すべく、準備を進めているところであります。しかし、いまだにコロナ禍の余波と、肌身に迫る不安が日常の生活の中に残っているのが現況であります。一日でも早く克服し、会員の皆様の元気なお姿をお迎えいたしたいと考えております。近年、私達の生活は、衣食住共に諸物価高騰の煽りを受け、日々の生活が益々厳しく感じる昨今ですが、来る第五十二回北海道連合会総会には、万障繰り合わせの上、ご参加くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

函館福島県人会

会長　小山　直子

福島県人会北海道連合会の設立五十周年を心からお慶び申し上げます。先人の皆さんには、母県福島から北海道の地に移り、寂しい思いや気候や風習等の違いで戸惑いもあったかと思います。そんな中で福島県人の粘り強い精神性で北海道の大地に根を張り、県人会連合会を設立して下さったことに改めて感謝申し上げます。

【箱館奉行所にて】

函館福島県人会も以前は会員数も多く、総会をホテルで開催したり、春と秋のレクレーションは得意な方の先導で山菜採りや川釣りを楽しみ、採ったキノコで山菜汁を作り、釣った鮎は塩焼きして、川辺で一日みんなで楽しんだそうです。私の両親も福島から来ましたが親戚はおらず、転勤族だったために知り合いも少なく、県人会の皆さんに誘っていただき、お国なまりがポンポン出る会話、懐かしいふるさとの話や近

況報告で、まるで故郷に帰ったような安心感と安らぎをいただいたようです。

現在は残念ですが、会員も減少し高齢化も進んでいるために遠出をしてレクレーションをすることは難しい状況です。しかし、会員の中にフィンランド発祥の「モルック」というスポーツを普及している人がいますので、来年函館で開催される世界大会の出場は無理としても、健康維持と会員の親睦を深めるために練習をしようと計画しています。

福島県人会北海道連合会が今後も会員の心の拠り所として長く続くことを祈念します。

旭川福島県人会
会長　佐藤　貞夫

福島県人会北海道連合会設立五十周年誠におめでとうございます。

これまで福島県人会北海道連合会をお支え頂いた道内の各県人会の諸先輩の方々、そして福島県北海道事務所の歴代所長様を始め事務所の職員の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、私共旭川福島県人会は昭和四十年四月一日に設立されまして、旭川市に在住の福島県出身の方はもちろん、福島県にゆかりのある方々にも会員になって頂いており、現在は十八名の会員の皆さんで活動しています。

また、市内東旭川のペーパン地区には、旧太田村（現在の伊達市）から集団で開拓移住された方々で独自に設立されたペーパン福島県人会があり、お互いに交流を深めております。

県人会の主な行事としましては、北海道連合会総会・懇親交流会への参加を始め、新年会や秋には観楓会を行っております。また、毎年福島の桃のＰＲで旭川においでになる福島県くだもの消費拡大委員会との懇親会では、ミスピーチの皆さんにお目にかかるのを多くの会員が楽しみにしています。

最後に、福島県人会北海道連合会の益々のご発展と各県人会の会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げお祝いのご挨拶と致します。

【ミスピーチからのももの贈呈】

別海町福島県人会
会長　白石　政司

本年、福島県人会北海道連合会が設立五十周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

当連合会の半世紀の経過の中には、様々な課題や出来事があり、その都度歴代の役員の皆様や事務所の方々が、多大なご苦労をなされた事に心より感謝申し上げます。

さて、我が別海町福島県人会ですが、五年前に創立五十周年を迎えました。これまでの活動の一部を紹介しますと、毎年開催される北海道連合会の定期総会ですが、広大な北海道ですのでその交通手段が一番大変でありました。幸いな事に、隣町の浜中町県人会のご厚意により、町有バスに幾度となく便乗させていただき、本当にありがたく心より感謝する次第です。ただ、先般、同県人会が解散という事で残念な思いであります。

一方、美幌町県人会の皆様とも、古くから観楓会等を通して交流を深めております。今後とも、末永く交友を通じていければ幸いです。

【美幌町と合同で開催した観楓会】

ここで、我が県人会のある別海町について若干紹介します。

面積一三二〇平方キロという広大な土地に、大きな夢と希望に胸を膨らませた私達の先人は、一九三〇年（昭和五年）、団体や個人として入植致しました。気象条件等様々な困難に対し、持ち前の東北魂でこれを乗り切り、結果としまして、別海町は、酪農では一戸あたりの乳牛の飼養頭数は平均二〇〇頭、牛乳生産量は一〇〇〇トンの酪農王国となり、漁業でも鮭・マス・ホタテ等を大量出荷しております。

私達は、今後とも様々な社会情勢に対応し、福島県人会の強い絆と信頼関係を密にして頑張る所存です。

これからもよろしくお願い致します。

美幌町福島県人会
副会長　前崎　孝子

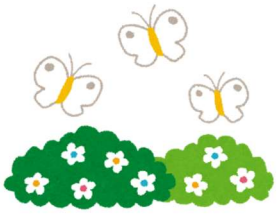
福島県人会北海道連合会が設立五十周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

この節目の年に、美幌町及び別海町県人会が開催県人会として、第五十一回福島県人会北海道連合会総会が開催出来ましたことを、大変嬉しく思います。

令和五年五月二十七日、さわやかな空のもと、各県人会員の皆さんが開催地であります、ホテル網走湖荘に元気な姿で到着され、開催県人会としても大変嬉しくホッとしていたところでした。福島県より副知事、副議長様、また地元からは町長、議長様にご出席いただきました。全道から五十二名の方が参加され、四年振りに皆さんとお会い出来たことで、それぞれに懐かしい思い出話に花を咲かせておりました。開催県人会としては、大変嬉しく感謝の気持ちで一杯でした。

北海道事務所の皆さんにお世話になりながら、美幌町、別海町両県人会で担当を無事終える事が出来ました。これも皆さんの協力があってこそ、と感謝申し上げます。来年は札幌で、お会い出来る日を楽しみにしております。皆さんお疲れ様でした。

【懇親交流会での歓迎あいさつ】



千歳福島県人会
会長　五島　洋子

福島県人会北海道連合会の設立五十周年の佳節お祝い申し上げます。半世紀をふり返る時、東日本大震災において、福島は世界で経験した事の無い複合災害を受けましたが、十二年経過した今日、課題はあるものの、見事に乗り越え復興を遂げています。

千歳県人会の発足当時を詳細に知る初代、二代目会長、活躍された先人達は故人となり、不明な点もありますが、共に活動させて頂きました。心に残る主な行事は、まず千歳が当番で開催した連合会総会です。三回の開催は、皆の団結で成功しました。市開催のビール祭りでは、国内外の交流地のミスコンテストの代表者を招き、お披露目をしました。私達は「ミス牡丹」を迎え、応援しました。前夜祭のウェルカムパーティーは圧巻でした。冬は市内の十四県人会で「郷土餅つき大会」を開催

し、各々故里自慢の餅を振る舞いました。会員の真心で提供された、春先に採った新芽の蓬でついた私達の蓬餅は大好評で、市民の方々に喜ばれ、終了後には、会員の経営する店でごくろうさん会を開きました。災害時は、東北県人会と共に一週間街頭に立った事も懐かしく思い出されます。

【ミス牡丹を迎えて】

いつしかコロナ禍でイベントは全て中止となり、集合離散の習慣は、巣篭もり生活へと一変しました。気付けば会員は高齢化し、体調にも変化が訪れ、会員数の減少にも拍車がかかっており、活気溢れる県人会の構築を願うばかりです。

昨今、テレビから内堀知事の「復興はチャレンジ。来て、見て、食べて」「不可能の反対は挑戦」と復興に挑む発言を聞き、感動しました。今年網走での総会で仲良くなった友は、福島が好き過ぎて県人会に入会。歴史が大好きな歴女で、白虎隊に興味があり福島へ一人旅に出かけ、見て食べて語りあい、益々福島ラブになったそうです。「入会し早十年。県外の私が今迄続けて来れたのは、苫小牧の方々の懐の深さ、心の広さ」と言います。千歳には今年、事務局長の紹介で美唄市在住の福島県出身者が入会しました。発想の転換で、身近な家族や市外の方もウエルカム。県人会での出会いは、同郷の心の結びつきで我が人生を豊かにし、元気をもらいます。来春の連合会総会は札幌・千歳県人会が主催します。健康第一の生活に留意しつつ皆様にお会い出来ます様、心から楽しみにお待ち致します。

【郷土餅つき大会】

苫小牧福島県人会
会長　渡辺　健治

福島県人会北海道連合会が、この度めでたく五十周年記念号を刊行されるにあたりお祝いを申し上げます。

苫小牧福島県人会は平成元年九月七日に、二十三番目の道内福島県人会として創立し、二年後の平成三年二月に初代会長今野氏のもと、福島県人会北海道連合会に加盟申請し、加盟決定以来、創立の趣旨と目的に添い会員との絆を大切に親睦と交流事業を行って参りました。

【苫小牧福島県人会結成の基になった「ハマナス国体」苫小牧開催の福島県テニス選手の応援風景】

平成十年には、苫小牧市制五十周年記念事業として市の実行委員会からとまこまい港まつりで郷土芸能を披露してほしいとの要請があり、福島県北海道事務所の協力を得て、当県人会は郷土からミス会津を招聘するとともに、会員と共同出場で「会津白虎隊おどり」を披露しました。

【会津白虎隊パレード】
（平成10年8月 港まつり）

それを契機に平成十一年より会員の参加協力を頂いて、港まつりに物産店を出店し、福島県産の「桃」を販売しました。現在は「桃ジュース」も販売しながら、郷土の物産及び福島県のPRを実施しております。また、売上金の一部を苫小牧社会福祉協議会への支援事業として、二十数年間に亘って寄付を続け、地域社会に貢献して参りました。

平成二十三年三月十一日に発生した未曾有の東日本大震災では、三重苦を受けた郷土に会員個人と当

県人会から義援金を送り、また、港まつり会場に来場の皆様方に復興支援の募金を呼びかけ、当県人会としても十年間復興支援金として寄付を実施してきました。

また、平成十八年の第三十四回福島県人会北海道連合会総会苫小牧大会、平成二十七年の第四十三回総会苫小牧大会の主管県人会として、連合会総会を二度担当いたしました。各県人会の皆様の協力のもと多数参加いただき、成功裏の内に終了した記憶が、昨日のごとく蘇って参ります。

終わりに、各県人会の会員減少や経済情勢の厳しい状況下でありますが、県人会のこれからの事業推進により一層のご支援・ご協力をお願いし、親睦交流の場である福島県人会北海道連合会の更なる発展をご祈念いたします。

【港まつり初日　開店前の記念写真】

連合会の活動

第五十一回福島県人会北海道連合会総会が開催されました

第五十一回福島県人会北海道連合会総会が、網走市の「ホテル網走湖荘」で、五月二十七日（土）に開催されました。

鈴木福島県副知事をはじめとした多数の来賓をお迎えし、道内県人会から会員の皆様等、合計五十二名が出席しました。

総会では事業計画や収支予算が承認され、次回の総会開催を札幌福島県人会と千歳福島県人会が合同で担当することが決定されました。

式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会長からの感謝状が贈られました。

【感謝状受彰者】

福島県知事感謝状

佐藤　貞夫　様（旭川）

福島県人会北海道連合会長感謝状

若松　謙維　様（札幌）

涌井　国夫　様（札幌）

吉田　良子　様（美幌町）

【連合会長感謝状を授与される吉田様】

【知事感謝状を授与される佐藤様】

懇親交流会では、全国新酒鑑評会で金賞を受賞した福島県産日本酒等を味わいながら、母県の思い出話に花を咲かせるとともに、来賓の方々を交え会員同士の交流を深めました。

また、旭川福島県人会の佐藤貞夫様が吟舞「名槍日本号」、同県人会の渡邉武治様が「相馬盆唄」を披露され、会場は大いに盛り上がりました。

【民謡で会場を盛り上げた旭川県人会の皆さん】

四年ぶりの参集開催ということもあり、再会の喜びを分かち合う会員の皆様の笑顔が溢れていました。

【懇親交流会でのひとこま】

【次回総会を担当いただく札幌・千歳両県人会の皆さん】

開催に当たり、主催県人会である美幌町県人会及び別海町県人会の皆様には、多大なご協力をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

【懇親交流会のフィナーレを飾る美幌町・別海町両県人会の皆さん】

福島県人会北海道連合会総会開催状況

回　数	年月日	開　　催　　場　　所	参加者	担当県人会
第１回	48・５・７	函館市湯の川温泉・芳明荘	６３	函　　館
第２回	49・５・11	札幌市・都市会館	６４	札　　幌
第３回	50・５・17	上川町層雲峡温泉・ホテル大雪	９９	旭　　川
第４回	51・５・22	阿寒町・阿寒観光ホテル	１２１	釧路･別海町
第５回	52・６・11	岩見沢市天望山・万景閣	１４４	岩 見 沢
第６回	53・６・17	小樽市・小樽国際ホテル	１４１	小　　樽
第７回	54・５・26	音更町・十勝川国際ホテル筒井	１４８	帯　　広
第８回	55・６・７	函館市・湯の川観光ホテル	１３７	函　　館
第９回	56・５・23	札幌市定山渓温泉・章月ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ	１２７	札　　幌
第１０回	57・５・22	上川町層雲峡温泉・ホテル大雪	１７７	旭　　川
第１１回	58・６・５	弟子屈町川湯温泉・御園ホテル	１６４	釧路･別海町･浜中町
第１２回	59・６・17	小樽市・小樽国際ホテル	１３８	小　　樽
第１３回	60・５・26	音更町・十勝川国際ホテル筒井	１０９	帯　　広
第１４回	61・５・10	函館市・湯の川観光ホテル	１２１	函　　館
第１５回	62・５・９	札幌市・定山渓第一ホテル	１４１	札　　幌
第１６回	63・５・14	旭川市・旭川パークホテル	２０５	旭　　川
第１７回	元・６・３	稚内市・稚内総合文化センター	２２５	稚　　内
第１８回	２・５・26	紋別市・紋別市文化会館	２２８	紋　　別
第１９回	３・６・１	弟子屈町・川湯第一ホテル	２６２	釧路･別海町･ 浜中町･弟子屈
第２０回	４・５・31	函館市湯の川温泉・花びしホテル	１８２	函　　館
第２１回	５・５・22	札幌市定山渓温泉・グランドホテル	１９７	札幌・小樽・余 市 町
第２２回	６・５・21	上川町層雲峡温泉・ホテル大雪	２４６	旭川・旭川駐屯地
第２３回	７・５・13	音更町・十勝川国際ホテル筒井	２１４	帯　　広
第２４回	８・５・15	稚内市・稚内全日空ホテル	１８４	稚　　内
第２５回	９・５・17	紋別市・紋別市文化会館	２０２	紋別地区
第２６回	10・５・23	美幌町・美幌グランドホテル	１９９	美 幌 町
第２７回	11・５・15	札幌市・札幌不二ホテル	１７０	札　　幌
第２８回	12・５・27	千歳市・ホテル日航千歳	１９１	千　　歳
第２９回	13・５・26	函館市・花びしホテル	１４０	函　　館
第３０回	14・５・18	帯広市・ホテルノースランド帯広	１４４	帯　　広
第３１回	15・５・24	弟子屈町・川湯観光ホテル	１６９	別海町･浜中町
第３２回	16・５・８	上川町層雲峡温泉・ホテル大雪	１９５	旭　　川
第３３回	17・５・14	稚内市・稚内全日空ホテル	１４３	稚　　内
第３４回	18・５・27	苫小牧市・グランドホテルニュー王子	１７１	苫 小 牧
第３５回	19・５・26	紋別市・ホテルオホーツクパレス	１６８	紋別地区
第３６回	20・５・24	網走市・ホテル網走湖荘	１４６	美 幌 町
第３７回	21・５・23	札幌市・定山渓ビューホテル	１６５	札　　幌
第３８回	22・５・22	千歳市・ＡＮＡクラウンプラザホテル千歳	１６３	千　　歳
第３９回	23・４・１	札幌市・北海道経済センター	２６	函　　館
第４０回	24・５・26	弟子屈町・川湯観光ホテル	１２３	別海町･浜中町
第４１回	25・６・１	上川町層雲峡温泉・ホテル大雪	１２３	旭　　川
第４２回	26・６・７	函館市湯の川温泉・湯元啄木亭	１２９	函　　館
第４３回	27・５・30	苫小牧市・グランドホテルニュー王子	１３０	苫 小 牧
第４４回	28・５・28	網走市・ホテル網走湖荘	１０９	美 幌 町
第４５回	29・５・27	札幌市・定山渓万世閣ホテルミリオーネ	１０７	札　　幌
第４６回	30・５・26	千歳市・ホテルグランテラス千歳	１０２	千　　歳
第４７回	元・５・18	旭川市・アートホテル旭川	８４	旭　　川
第４８回	２・５・27	書面開催	－	
第４９回	３・５・26	書面開催	－	
第５０回	４・５・28	書面開催	－	
第５１回	５・５・27	網走市・ホテル網走湖荘	５２	美幌町・別海町

会員通信

県人会の近況について

札幌福島県人会
事務局長　大山　洵

寄稿という事で何を書こうか迷いましたが、今年私が参加した札幌福島県人会総会、桃の販売イベントの二つについて書きたいと思います。

まず、今年一月に実施された札幌福島県人会総会は、新型コロナウィルスの影響もだいぶ落ち着いたこともあり、多くの方々に参加いただきました。「福島のお酒」が並ぶのも毎年恒例で、福島の日本酒を堪能させて貰ったうえ、私は余った一升瓶を有難く頂戴いたしました(笑)。

【福島のお酒】

総会は札幌県人会の会員の多くが集まる公式の機会であるため、皆さま久々の交流を楽しまれているようでした。

今年一月と七月に実施されたサッポロファクトリーでの桃やあんぽ柿の販売イベントは、やはり毎回「ふくしまの桃」の人気ぶりに驚かされます。開場前に既に多くの方が桃を買い求めようと並んでおり、箱で購入される方も多くいらっしゃいました。当日は福島県の観光パンフレットも同時に数多く並ぶのですが、私も試しに手に取ってみると、実は知らなかった福島のスポットやモノがあり、「ふくしま」について新発見する機会にもなりました。

【サッポロファクトリーでの桃の販売】

ただし、七月に実施された方のイベントですが、今年の夏は非常に暑く、福島県事務所の方々、そして福島県から応援にいらっしゃった職員の方々と一緒に、準備のため文字通り「(大量の)汗を流した」訳ですが、それも良い思い出になりそうです。

このように天気気候の移り変わりの激しい昨今ですが、(もちろん私も含め)皆さまもどうか健康にはご留意いただき、元気でお目に掛かれる日を楽しみにしております。

モルックを通じて地域に笑顔を

函館福島県人会
会員　橘高　由香

二〇一一年東日本大震災の影響で私たちは函館へと避難してきました。母子四人函館で新たな生活を始めました。

幸いにもご近所の皆さんが私たちを温かく迎え入れ、見守ってくれたおかげで子どもたちも元気に過ごすことができました。

新しい環境での生活の中で、様々な職種を経験することができました。そして自分の出来ることでいつか恩返ししたいと考えるようになりました。

函館に来て十年目にプライベートジムを開業しました。昨年モルックというスポーツに出会い、その楽しさとチームの協力に感動しました。モルックは木の棒を投げてピンを倒す競技です。単純だけど奥が深いスポーツです。

【子どもから大人まで楽しめるモルック】

さまざまな人々との出会いを通じて、地域の人々の温かさと支援に心から感謝しています。その恩返しを形にするために、私はモルックの市民団体を立ち上げ活動しています。

モルックを通じて地域の笑顔を増やしていきたいと思っています。

私の人生に寄り添ってくれた皆さんに、心からの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

【モルックの市民団体のメンバーと】

令和元年度の宮城県人会観楓会に、福島県人会から三名参加する等少しずつ交流を進めてきました。そこに、コロナウイルス対策で何処も同じと思いますが、令和二年からは対面行事が全くできませんでした。それでも昨年後半から、対面総会ができた際は合同懇親会を開催する方向で計画を進めてきた状況です。今回、合同懇親会が実現でき、連合会総会の開催と同じく本当に嬉しい限りです。

旭川宮城・福島県人会
合同懇親会開催

旭川福島県人会
幹事長　圓谷　清

令和五年二月二十六日（日）、第一回旭川宮城・福島県人会合同懇親会を旭川アートホテルにて開催しました。四年ぶりの総会後の懇親会であり、参加者一同久しぶりの再会と行事を大いに楽しむことができました。

各地区の福島県人会も高齢化と入会者が少なく会員数が毎年減少している状況と思いますが、当県人会も本当に深刻な悩みです。宮城県人会も同じ状況であり、以前より相互に情報交換をしてきました。

【合同懇親会での集合写真】

懇親会開始前の集合写真撮影から始まり、二十七名の出席者ということで以前のような賑やかな懇親会の雰囲気を感じることができました。県の松浦事務所長にご挨拶を頂き、県の現況と各県人会活動状況及び連合会総会開催についての進捗状況のお話があり、特に五月の連合会総会（網走湖荘）での再会を楽しみにしているとのお言葉を頂きました。

演芸披露では、当県人会佐藤会長の吟舞「名槍日本号」の披露から始まり、三味線（菅野孝山流玲山会の皆様八名）の演奏で会の盛会に協力して頂きました。皆さんカメラを盛んに向けていましたね。三味線生演奏に併せて、宮城県人会大谷内英子さんによる民謡「さんさ時雨」と、福島県人会渡邉武治さんによる「相馬盆唄」の二曲もあり、ふるさとを大いに思い出すことができました。お二人には、民謡で大いに会を盛り上げて頂きました。締めの挨拶に、婦人部長髙木厚子さんから、お互いに健康に注意して次の機会にまた元気に会いましょうとの言葉を頂きました。

宮城県と福島県は隣組で昔から交流があり、これからもお付き合いをよろしくお願いしますとの気持ちで、最後まで大盛会の懇親会でした。

第五十一回北海道連合会
総会を終えて

別海町福島県人会
事務局長　大内　照雄

全道連合会会員の皆様お元気でしょうか、別海町県人会事務局です。全国的コロナ感染もどうやら落ち着きを取り戻し、第五十一回北海道連合会総会を四年ぶりに参集して開催出来ましたこと、心から感謝申し上げます。

当日は、懇親交流会の担当としての責任を痛感しながら、来賓各位、会員の皆様と無事に終了出来ましたこと、心から皆様のご協力に感謝を申し上げます。

懇親交流会の司会者を任され、交流会の二時間をどのように参加者の皆様と、合わせることが出来るか、引き受けたときから悩んでいました。

打ち合わせもなく、強引に個人のカラオケセットを持参して、モニターテレビが用意できるかホテルと交渉しましたが、結局カラオケの再開は七月以降とのことで、持参したものも使用できず、断念せざるを得ませんでした。

懇親交流会に入り、緊張をして開会の言葉を発しましたが、連合会

【懇親交流会での大内事務局長】

長の挨拶「カラオケも無いし、福島の酒を呑んでみんなで楽しくやりましょう。」の一言に、会場内がすっかり和やかな雰囲気になり、コレはすごいことだと、感心いたしました。司会者にとっても、今でも最高の言葉だったと感じています。有難う御座いました。

前段、いろいろとシナリオを考え、気を遣いましたが、途中からはすっかりアドリブで、気が付いたときは終盤になっていました。時間が過ぎるのもあっという間でした。それもこれも参加者の皆様の県人会の絆とご協力があってこそ、四年ぶりの懇親交流会は、年が増えたのではなく、四年ぶりに若返った感じを受けたのは、私だけでなく皆さんもが心に感じたことと思います。

懇親交流会の最後は、恒例で北海盆踊りを参加者で踊っていましたが、カラオケのない今年は、総会を開催した美幌町、別海町両県人会の皆様にご苦労様の意を込め、会場一杯の拍手で感謝を申し上げました。無事に何事もなく終了できましたこと、地元美幌町県人会の会長をはじめ皆様、事務局のご協力があり、深く感謝申し上げ、御礼に代えさせて戴きます。有難う御座いました。

美幌町福島県人会 フェスティバル開催について

美幌町福島県人会
幹事長　佐藤　登

新型コロナ禍で中止となり、四年振りの開催となった第四回美幌町福島県人会フェスティバルが、六月十八日に「アカシヤ」で行われました。来賓に、福島県北海道事務所長松浦晃様、美幌町長平野浩司様、美幌町議会議長戸澤義典様を迎え、県人会メンバー十名、協賛会員八名が勢ぞろいしました。

開会の挨拶は前崎副会長が宣言し、来賓挨拶を松浦所長、平野町長からいただき、続いて近藤会長からは歓迎の挨拶の中で、北海道連合会総会の御礼の言葉がありました。そして、戸澤議長の乾杯のご挨拶で宴が始まりました。カラオケあり、美味しいお酒もあり、終始なごやかな雰囲気の中、楽しい時が流れました。

【談笑する佐藤幹事長】

最後は皆さんで「美幌峠」を合唱して、お開きとなりました。二次会も同じ会場で開かれ、酒が無くなるまで飲み明かしました。コロナで三年近く、皆さんも我慢していたから、尚更楽しく、懐かしい時間でした。

そして北海道連合会総会の時は、各県人会の多くの皆様の出席を頂き、誠に有難うございました。また来年、札幌でお会い出来る事を楽しみにしております。

連合会長表彰を受彰して

美幌町福島県人会
幹事　吉田　良子

この度、第五十一回福島県人会北海道連合会総会におきまして、連合会長表彰を頂戴いたしました。連合会設立五十周年という大きな節目の年にこのような賞をいただきましたこと、大変光栄であり、驚きと同時に感謝の気持ちで一杯です。

私が夫と三人のまだ小さかった子供たちと美幌町に移住したのは十一年前。それまで勤め人だった夫が退職し、北海道での農業を志しての事でした。私たちにとって北海道は未知の土地であり、親戚や知人もおらず、新しい暮らしへの期待と不安が入り混じった気持ちで美幌の地を踏んだことをよく覚えています。経験のない北国での暮らし、初めての農業に奮闘していたころ、美幌町に福島県人会があることを知り入会させていただきました。県人会の皆さんは、私たち家族を温かく迎え入れてくださり、会の定例イベントであるフェスティバルや忘年会では、時に北国での暮らしの知恵を教えていただき、時にお互いの故郷の話で盛り上がり、時によく頑張っていると激励をいただき、子供た

ちのことも、まるでご自身の孫であるかのように気にかけ、優しく接してくださいました。美幌に親戚のない私たちにとって、まるで故郷の親戚と話をしているような心強さを感じる場所でした。

【吉田幹事ご夫妻】

そんな温かい美幌町福島県人会の皆さんのおかげで、私たちが美幌に移住して早くも十一年が経ちました。小さかった子供たちもすっかり大きくなり、上の二人は私の身長をとっくに超え、一番下の子もまもなく私の背を超そうとしています。十一年の間には様々な困難もありましたが、何とか乗り越えてこられたのも、いつも温かい声をかけてくださる、美幌町福島県人会の皆さんのおかげと感謝しています。今後も微力ではありますが、美幌町福島県人会の発展、さらには、福島県人会北海道連合会の発展に尽力させていただきたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

ふるさと福島

千歳福島県人会
監査　上田　政則

まず始めに、ホテル網走湖荘で行われた第五十一回連合会総会・懇親会では、皆様の真心こもった歓迎、美味しい料理に美味しい酒、楽しいことばかりで有難うございました。

さて、福島県で山の中と言えば会津、会津で山の中と言えば檜枝岐村（南会津）か西会津と言われるほどです。山を越せば新潟県、隣は山形県。飯豊連峰を眺めながら幼少期を過ごしました。

二〇二一年十月十三日に叔父が亡くなったので、葬儀に参加しました。通夜は自宅のある沢山の飾りの中で、会津三十三観音の歌詠みやお坊さんの読経で亡くなった人を偲び、三十人ほどの人で夜遅くまでの宴を行いました。翌日は、喜多方の告別式（火葬場）に向かいました。

車中から見る会津のみしらず柿が寂しそうに下を向いていました。（会津のみしらず柿の名前の由来は、自分の身の丈以上にたわわに実をつけることから来ており、その姿はまさに圧巻です。干し柿の天ぷらも美味しいです。）

【会津みしらず柿】

告別式（火葬）が終わり、帰宅したのが十八時頃で、周辺はすっかり暗闇です。

お坊さんは不在でしたが、最後のお勤めを全員で行いました。会津三十三観音の歌詠みの中には番外もあり、三十分くらいかかります。

葬儀委員長が「お疲れ様。食事にしましょう」と言うと、会場準備が始まり、お手伝いさんを中心に宴会が始まりました。三十分経過した頃、お坊さんが到着し、一人でお勤めを始めました。

葬儀委員長が「お坊さんがあまり遅かったので、勝手に飲んでいましたよ」と言うと、お坊さんも「わかっていますよ」と答え、読経が終わると宴席に参加し、亡き人を偲びつつ、今日のご苦労を分かち合いました。

コロナ禍の時代、葬儀も大きく変化しています。（身内だけの葬儀、葬儀終了の案内のみ。時間指定の通夜等等。）会津も大きなお葬式から、小さなお葬式に変わるのも、時の流れかもしれませんが、会津三十三観音の歌詠みは残してほしいものです。

飲みながら、葬儀委員長の長谷沼清吉氏と故人を偲ぶとともに、西会津にも隠れキリシタンのお墓があり、言い伝えがあることを教えてもらいました。

天正一八年（一五四九年）蒲生氏郷の会津入部からと言われ、家臣団にも多くの信者がおり領民に広まったといいます。また、保科正之の家臣にも信者がおり、猪苗代・高田・田島に特に多かったといわれています。

会津は仏都にもかかわらず、何故か山の中の高目、小清水集落に変形十文字のお墓があり、高目諏訪神社の右側におんば様と言われる祠が

あります。祠の正面は、十字文様の四ツ目になっており、祠の中には木造のおんば様が祭られています。（「近世　山村の暮らし　長谷沼清吉」一部引用）

どんな山の中であっても、切支丹と言うだけで迫害を受けたり、年貢を納めるために借金までして庶民は生活していたのであります。

圧政に苦しみながらも、会津の人は、義理人情に厚く、人に優しい土地柄です。会津三十三観音を巡る只見線での旅も新たな福島の発見がありますよ。

追伸　今年は八月一日から二泊三日の強行軍で、孫を連れ、お墓参りをしてきました。「じいちゃんの卒業した学校だよ」と紹介した「ちいせい」新郷小中学校は、国際芸術村として健在でした。

【旧新郷中学校を活用した西会津国際芸術村】

現在の私

千歳福島県人会
会員　齋藤　久美夫

私は、いわき市出身でありまして、高校を卒業後、陸上自衛隊に入隊し、関東や東北で勤務しておりましたが、平成三年に渡道して以来、三十二年が経とうとしております。その間、二度ほど道外（東京、茨城）で各二年間勤務しており、実質道内には二十八年住んでいることになります。千歳市に十六年と美唄市に十二年であります。

平成二十八年に美唄の部隊において定年を迎えましたが、自衛隊入隊以来三十六年間も、いわき市を離れていたため、地元には帰らず、そのまま美唄に住み続け、建設会社に再就職致しました。その約二年後には、お世話になった地域に、少しでも貢献できることはないかと一念発起して、今は美唄市の市議会議員として、今年の六月から二期目を務めております。また、千歳に十六年間住んでいた縁もあり、当時の知人に声をかけていただき、令和四年に千歳福島県人会に入会致しました。

常に「市民のため、地域発展のため」を念頭に、現場第一主義で努めて参りたいと思っております。

【趣味のクロスカントリー】

会津藩士の曾祖父と私

苫小牧福島県人会
理事　角田　博文

私は十五年前に、「苫小牧福島県人会」に入会しました。福島県出身の友人から「角田」を「つのだ」と呼ぶ言い方は「福島県人」で、「角田」を「かくた」を呼ぶ言い方は、「宮城県人」だと教えられました。県人会への入会にあたっては、会の顧問であり「会津坂下町」出身で、元道議会議長をされていた遠藤連氏からの紹介でした。

私の曾祖父である「角田奇山（きざん）」は、会津藩士でした。「戊辰戦争」で敗れたのち、安住の地を求めて函館にたどり着きました。函館で一家を構えて、私の祖父や父が生まれ育ちました。曾祖父の「角田奇山」は、「會津藩校日新館」で「文武」を学び、藩主よりご褒美として二回「漢籍」を賜ったことを誇りに

していたようです。

【會津藩校日新館（会津若松市）】

函館では、「大森町駐在所」の駐在さんとして、地域の人々に親しまれていたそうです。そして退職後は「大森慈善学校」を開設して地域の子供達に無償で勉強を教えていたそうです。

私は「会津藩士」の末裔ですが、今日まで一度も会津若松市を訪れたことがありません。「鶴ヶ城」や「藩校日新館」、「白虎隊士の墓」を訪れることが私の夢です。

「会津藩士」は、青森県への移住を強制されたので、福島県内に親戚は誰もいません。唯一「とまこまい港まつり」のテント内で福島県の桃を一緒に販売している「苫小牧福島県人会」の皆さんが、望郷「福島」へつながる「道標（みちしるべ）」です。

十年ほど前に「会津高校野球部」の選手達が、全国一になったことのある「駒澤大学付属苫小牧高校」野球部のグランドに来て、両校の練習試合が行われました。私たち家族の応援もむなしく、遠来の高校球児達は敗れましたが、はつらつとしたプレーに感動しました。球児達の姿が、望郷「福島」と重なって、「桃」売りをしながら懐かしんでおります。

親子三代県人会に加入して

苫小牧福島県人会
理事　岸本　和香

遡ること四半世紀以前、まだ高校生だった私は母の手伝いをと思い、初めてとまこまい港まつりで桃売りをしました。

その頃はまだ会員数も少なく、人手が欲しいとのことで姉と一緒に店頭に立つことになりました。見よう見まねで桃にフルーツキャップを被せ、パックに詰めていきました。今みたいにラテックス手袋など出回っていない時代でしたので、その頃はそっと桃を持ち、品質確認をしながらの作業でした。今でこそ福島の桃の美味しさを知っている方々が、年に一度のお祭りの時に「待ってました。」と言わんばかりに早い時間から買いに来てくれますが、当時はそうもいかず、声が枯れるほどの呼び込みや試食をたくさん行い、足を止めてくれるお客様一人ひとりに福島の桃の美味しさを宣伝して購入していただいていました。

【姉と一緒に（右が私）】

苫小牧市制五十周年に「会津白虎隊おどり」を披露することとなり、神野前会長さんが姉の働く職場にアナウンスの原稿をもってきてくれたこともありました。姉は白虎隊のパレードに、私と母は一緒に会場で桃売りに励みながら楽しく過ごしたことを今でも覚えています。それこそミスピーチと並んで販売したことを。

【港まつり　開店前の行列（令和５年度）】

母の後を継ぐように私も県人会に入り、今では娘も会員となり、今年のお祭りにデビューしました。私がお手伝いし始めた頃の歳と同じなので感慨深いのもありますが、娘の目的は桃！（笑）生まれた時から食べ親しんでいる福島の桃は、娘にとってもそうですが、私達一家では

毎年欠かせないものとなっています。

昨年長期入院していた母も、退院した当時は食事もまともに摂れなかったけれど、この桃のおかげもあり食欲が戻り、今ではどう見ても健康体！暑い夏でバテずに済むのも、この桃のおかげだと思っています。夏は桃、冬はリンゴと、果物好きの我が一家では、母が福島生まれでよかったなと感謝しております。これからもみなさんと楽しく笑い合いながら、県人会の発展のために協力していけるように頑張っていきます。

【港まつりにデビューした娘と私】

OBからのお便り

第十三代所長　末永　弘
（平成九年四月～十二年三月在籍）

大変ご無沙汰しております。皆様お変わりありませんか？

福島県人会北海道連合会設立五十周年誠におめでとうございます。

半世紀もの間「よきかな　わが母県・福島」を合い言葉に、各地区の福島県人会の持ち回りで北海道各地で総会を開催され、今年で五十年にもなったのですね。五十年間も継続することは本当に大変なことで、改めて県人会の皆様に敬意を表します。

私が在籍したのは、平成九年度から十一年度の三年間でしたが、当時、道内には十六の福島県人会があり、八百名を超す大きな組織でした。

当時の連合会長は旭川の梅津一四郎さんで、その後函館の上田小八重さんにバトンタッチされました。

着任したばかりの平成九年の総会は、第二十五回という区切りの大会で、道北の紋別県人会の当番で開催されました。紋別での前回大会には、副知事が出席されましたので、今回はどうしても知事に参加していただきたいという地元の強い要望もあり、知事ご夫妻での出席が実現しました。お陰様で二百名近い方々の参加で大変盛り上がった総会になりました。

【第25回連合会総会にて】

平成十年は、道東地区の当番でしたが、美幌県人会で開催することとなり、準備のため美幌町までバスで通ったことが懐かしく思い出されます。懇親会の最後には参加者全員で盆踊りを踊り、翌年の再会を誓い合いました。

平成十一年は、札幌での開催でしたが、札幌県人会の皆様は何度も開催しておりますので、準備等には慣れており、スムーズに対応して頂きました。

【佐藤元知事による会津藩士の墓参】

それから「ふくしま県人会だより」は会員相互の交流を図るとともに、県人会と事務所の繋がりを強化するためどのようにしたら良いか考え、平成十年山口次長にお骨折りをいただき、ようやく発行することができました。今後も継続を期待しております。

思い出の多い札幌での三年間でしたが、福島県人会北海道連合会及び各県人会の今後益々の発展と皆様方のご健勝・ご多幸を祈念し挨拶と致します。

福島県統計課
主任主査　安部　宏宣
（平成二十四年四月～二十七年三月在籍）

福島県人会北海道連合会設立五十周年誠におめでとうございます。

こういった大事な節目に拙文ではございますが、書く機会を与えてくださった皆様に感謝申し上げます。

思い起こすに、私が北海道へ赴任していたのは平成二十四年四月から平成二十七年三月までの三年間で、東日本大震災後の混乱も一段落した頃でした。

異動を希望し続けて二十余年。念願叶って北海道事務所に着任し、それから間もなく行われた川湯温泉での総会では、新参の私はただ右往左往するばかりでしたが、そんな私を各県人会の皆さんは温かく迎えてくださったのを今でも昨日のように思い出します。その後も事務所が催す物産展や観光キャンペーン、モモの販促会などに足を運んでいただいたり、逆に各地の県人会が催されるイベントに招いていただいたりして親しく交流を深められたのは、仕事の上でも個人的にも大事な出来事として脳裡に刻まれています。

また、県を飛び出し、自分の生まれ育った福島県がどう見られているか、どう思われているかを知れたことも貴重な体験でした。

福島に戻ってから早くも九年が経ちますが、濃密な三年間を過ごした第二の故郷ともいうべき北海道への思慕の念はいささかも衰えておりません。

そして、妻も息子も道産子ゆえ、これからも渡道する機会があるかと思いますが、お目にかかる機会がありましたらよろしくお願いいたします。

末筆ながら、会員の皆様のご健康と、連合会並びに各県人会のますますのご発展を福島の地より祈念しております。

【鹿児島にて】

福島県農業振興課
主幹　菅野　英二
（第十九代主幹兼次長
令和二年四月～五年三月在籍）

福島県人会北海道連合会の設立五十周年、誠におめでとうございます。

私は、令和二～四年度の三年間、福島県北海道事務所におりましたが、その間は、正に新型コロナウイルス感染症が流行する最中で、通常の業務や活動が大幅に制限される状況でした。

県人会活動も大きく影響を受けた一つです。例年であれば、毎月のように開催される各地区県人会主催の各種イベント、そして年明けからは、各地区県人会の総会などの行事が目白押しです。しかし、令和三年度までは、そのほとんどが中止になりました。

そして何より参集による連合会総会が開催できず、私は、一度も総会を経験することなく福島に戻ったことが残念でなりません。令和二年度は、函館県人会の担当により準備がほぼ完了した段階での参集中止決定、令和三年度は、準備段階から開催不可と判断しての書面開催、令和四年度は、美幌町と別海町の県人会が担当の道東地区開催を計画しましたが、結局は書面開催となりました。しかし、今年の五月に、令和五年度総会が道東地区で開催できたことは、大変嬉しく感じるとともに、美幌町県人会の近藤会長様始め美幌町及び別海町県人会会員の皆様、関係の皆様のこれまでのご努力が実ったことは何よりです。

【美幌町県人会の皆さんと】

このような状況でしたが、コロナウイルスの影響を最小限にしながらの各地区県人会への訪問では、県人会の皆様の福島を応援する温かいお気持ちに触れることができました。また、個人的には、前連合会長と事務所職員とが稚内や利尻島にある会津藩士の墓を訪れた際、本県ゆかりの方々が大事に管理され

ている様子を窺い知り、嬉しく感じることができました。

北海道を離れて半年以上が経ち、時折、テレビの天気予報を観ると北海道と福島県との距離を改めて感じますが、今でも県人会の皆様との交流を鮮明に思い出すとともに懐かしくもあり、また機会があれば皆様にお会いしたいと思います。

末筆ながら、県人会の皆様におかれましては、健康にご留意なされるとともに、今後も会員相互の連携を密にされながら、北海道と福島県の橋渡し役としてご活躍されますことをご期待申し上げます。

【田中前会長と訪れた利尻島にて】

新会員の紹介

札幌福島県人会
伊藤　孝介　様（出身　南相馬市）

会員の皆様はじめまして！伊藤孝介と申します。

日本酒は会津中将、仁井田本家が好きです。夏になると相馬盆唄が聴きたくなります。

同郷の皆様と福島の話ができることをとても嬉しく思います。地元の話だけでなく人生についても色々お話をお伺いしたいです。宜しくお願いします。

大島　勝利　様（出身　宮城県）

昨年四月に札幌に赴任しました「大島勝利」と申します。

三井住友海上という保険会社で働いておりますが、昨年三月までは福島の郡山市におりました。自身の出身は仙台市ですが、父の実家が福島県の石川町であり、親戚が最も多いのが福島県です。

福島は故郷と思っておりますので、何卒よろしくお願いします。

苫小牧福島県人会
岸本　眞依　様（出身　福島市）

祖母、母、私と三代目の加入となります。また、若輩の会員となりますが、先輩の皆様のご指導方よろしくお願いいたします。

新任職員紹介

福島県北海道事務所　次長
松野　英行（出身　伊達市）

私は職員としての約三十年間、農業技術吏員として主に果樹の生産振興に従事してまいりました。

出身は福島県伊達市です。伊達市は福島県北部の福島盆地にあり、県内でも果物の生産がとても盛んな地域です。いちご、さくらんぼ、プラム、もも、ぶどう、りんご、かき、あんぽ柿と一年中いつでも旬の果物にあふれています。北海道に来て半年が経ちますが、福島県のもも、あんぽ柿を楽しみにしている方々がとても多いことに、感謝の念に堪えません。

赴任早々、第五十回という節目、さらには四年ぶりの集合開催となった北海道連合会総会に参加することができ、巡り合わせの良さを感じました。今後も県人会の皆様とともに福島県と北海道の交流促進に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【連合会総会での司会進行】

福島県北海道事務所　副主査
齋藤　光（出身 伊達市）

四月から北海道事務所に配属になりました齋藤と申します。

実は、これまでの人生で福島を離れるのは今回が初めてです。前の職場には四年勤務していましたので、そろそろ異動だろうなと思っていましたら、まさかの北海道事務所への異動辞令でした。北海道事務所への異動の内示を聞いた時は大変に驚きましたが、約半年住んでみて、自然も豊かで食べ物も美味しく、県人会の皆様も優しく親切で、改めて北海道に転勤となって良かったと感じています。福島から車も持って来ていますので、広大な北海道を隅々までまわって、季節ごとの魅力を肌で感じたいと思います。

また、趣味の登山も楽しみたいと思います。北海道には日本百名山が九座ありますので、制覇したいという野望があります。今年は旭岳、羊蹄山、利尻山に登りました。どの山も素晴らしかったですが、特に利尻山は夜行バスとフェリーを乗り継ぎ、移動だけで半日以上かかった上、海抜〇メートルから標高一七二一メートルまで一気に登り、山頂で三六〇度の大展望を味わえましたので、達成感はひとしおです。今度は花の浮島・礼文島にも行ってみようと思います。

【海の向こうに見える利尻山】

これから、県人会の皆様の御協力をいただきながら、福島県産農産物のＰＲや観光誘客をはじめ、私の生まれ育った福島の魅力を伝えられるよう精一杯取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

福島県からのお知らせ

【二セコ高橋牧場から見た羊蹄山】

全国新酒鑑評会にて、福島県の日本酒十四銘柄が金賞を受賞しました

独立行政法人酒類総合研究所が開催している令和四酒造年度「全国新酒鑑評会」において、福島県から二十八銘柄が入賞し、そのうち十四銘柄が金賞を受賞しました。

これは全国で五番目に多い数で、金賞受賞数日本一の連続記録は惜しくも途切れてしまいましたが、「ふくしまの酒」の製造技術・品質の高さを全国に示す結果となりました。

引き続き、福島県の美味しい日本酒を応援くださいますよう、よろしくお願いします。

【金賞酒一覧】

〔金水晶酒造店〕金水晶
〔有賀醸造〕陣屋
〔千駒酒造〕千駒　大吟醸
〔玄葉本店〕あぶくま
〔佐藤酒造店〕藤乃井
〔豊國酒造〕東豊国
〔人気酒造〕人気一
〔東日本酒造協業組合〕奥の松
〔山口〕会州一
〔吉の川酒造店〕会津吉の川
〔ほまれ酒造〕会津ほまれ
〔渡部謙一（開当男山酒造）〕開当男山
〔男山酒造店〕会津男山　回
〔白井酒造店〕萬代芳

【令和４酒造年度金賞受賞酒】

突然ですが

北海道にも福島県人会があるのをご存知ですか？

こんにちは。**福島県人会北海道連合会**事務局です。

北海道には、本人・ご両親などが福島県の出身であったり、福島県のことが好きな方が集まる、福島県人会があります。そのうち札幌、函館、旭川、別海町、美幌町、千歳、苫小牧の県人会が集まって、「福島県人会北海道連合会」を組織しています。ご興味のある方は、ぜひ、まずは連合会事務局まで、お問合せください。

福島県人会北海道連合会事務局（福島県北海道事務所 内）
TEL 011-241-8717 FAX 011-241-8719
Mail hokkaido.jimusho@pref.fukushima.lg.jp
HP http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01430a/0051.html

福島県人会北海道連合会規約

（総　則）

第１条　本会は、福島県人会北海道連合会と称する。

第２条　本会の会員は、北海道各地区の福島県人会（以下県人会という）をもって組織する。

第３条　本会の事務局は、札幌市中央区北１条西２丁目２番１号北海道経済センター５階福島県北海道事務所に置く。

（目　的）

第４条　本会は、会員相互の親睦を厚くし、県並びに県人に福利増進を図ることを目的とする。

（役　員）

第５条　本会に、次の役員を置く。

(1)　会　　長　　１　名
(2)　副　会　長　　２　名
(3)　理　　事　　若干名
(4)　監　　事　　２　名

２　本会に、顧問若干名を置くことができる。

第６条　理事は、連合会を構成する各県人会の会長をもってあてる。

２　会長、副会長及び監事は、理事の互選による。

３　顧問は、役員会の決議により会長が委嘱する。

第７条　会長、副会長、監事の任期は、２年とする。但し再任を妨げない。

２　会長、副会長、監事が退任したときは、直近の役員会で後任を選出する。この場合の任期は前任者の残任期間とする。

第８条　会長は、会を代表し会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

３　理事は、会長の諮問に応じ会務の執行に当たる。

４　監事は、会計の監査に当たる。

５　顧問は、役員会に出席し、意見を述べることができる。

（事　務　局）

第９条　本会に、事務局を置く。

２　事務局長及び職員は、会長が委嘱する。

（会　　議）

第 10 条　本会に総会及び役員会を置く。

第 11 条　総会は毎年１回開催し、第２項に掲げる事項を協議する。但し、会長が必要と認めた場合、及び会員の３分の１以上から要求があったときは臨時総会を開くことができる。

２　総会では、次の事項を協議する。

①事業及び予算計画並びに庶務会計の報告
②規約の改正
③その他必要と認めた事項

第 12 条　役員会は、会長が必要と認めるときに開催し、第２項に掲げる事項を協議する。

２　役員会では、次の事項を協議する。

①顧問、会長、副会長、監事の選出
②福島県人会北海道連合会会長表彰者の決定
③総会の協議事項に関すること
④その他必要と認めた事項

第 13 条　総会及び役員会の議決事項は、出席者の過半数をもって決する。

（会　　計）

第 14 条　本会の経費は、会費及び寄付金をもって充てる。

第 15 条　本会の会計年度は、４月１日から翌年３月３１日とする。

附　　則

この規約は、昭和４８年５月７日から施行する。

附　　則

この規約は、昭和５０年５月１７日から施行する。

附　　則

この規約は、平成１１年５月１５日から施行する。

附　　則

この規約は、平成１４年５月１８日から施行する。

附　　則

この規約は、平成１６年５月８日から施行する。

附　　則

この規約は、令和３年５月２６日から施行する。

福島県人会北海道連合会　役員一覧

令和５年５月 27 日現在

役　　職	氏　　名	所属県人会
顧　　問	田中　四郎	札　　幌
会　　長	近藤　康弘	美幌町
副会長	小山　直子	函　　館
副会長	佐藤　貞夫	旭　　川
理　　事	白石　政司	別海町
理　　事	船山　　一	札　　幌
監　　事	五島　洋子	千　　歳
監　　事	渡辺　健治	苫小牧

道内福島県人会設立状況

Ｎｏ	県人会名	設立年月日	備　　考
１	札　　幌	大正６年５月	
２	小　　樽	昭和 20 年４月７日	平成 15 年度より休止
３	帯　　広	昭和 23 年１月 28 日	平成 21 年度より休止
４	釧路市	昭和 26 年１月 18 日	平成 17 年度より休止
５	函　　館	昭和 37 年１月 26 日	
６	北恵庭	昭和 37 年８月	昭和 62 月 10 月合併
７	旭　　川	昭和 40 年４月１日	
８	旭川駐屯地	昭和 41 年４月１日	平成７年度解散
９	別海町	昭和 42 年８月	
１０	帯広駐屯地	昭和 45 年８月８日	昭和 62 年度より休止
１１	南恵庭	昭和 45 年８月	昭和 62 月 10 月合併
１２	美幌町	昭和 50 年５月	
１３	浜中町	昭和 51 年１月	令和３年５月１日解散
１４	紋別地区	昭和 52 年３月	平成 28 年６月１日解散
１５	名　　寄	昭和 54 年１月	平成２年度より休止
１６	遠　　軽	昭和 56 年 10 月４日	昭和 58 年度より休止
１７	稚　　内	昭和 58 年３月 27 日	平成 28 年度連合会退会
１８	朝日町	昭和 59 年３月 14 日	平成６年度連合会退会
１９	余市町	昭和 60 年１月 20 日	平成７年度連合会退会
２０	弟子屈町	昭和 60 年２月 21 日	平成 11 年９月 30 日解散
２１	千　　歳	昭和 61 年７月６日	
２２	恵庭市	昭和 62 年 10 月	北恵庭と南恵庭が合併 平成 19 年度連合会退会
２３	苫小牧	平成元年９月７日	
２４	標　　茶	平成９年３月 18 日	平成 13 年 11 月 30 日解散
	福島県人会 北海道連合会	昭和 48 年５月７日	

福島県人会北海道連合会　歴代役員一覧

年度	S48. 5	S50. 5	S52. 6	S54. 5	S56. 5	S58. 6
顧問						
会長	高田 富與 札幌	高田 富與 札幌	渡辺 祐之助 函館	渡辺 祐之助 函館	渡辺 祐之助 函館	渡辺 祐之助 函館
副会長	渡辺 祐之助 函館 木幡 磁郎 旭川 吉原 正重 釧路	渡辺 祐之助 函館 木幡 磁郎 旭川 信成 熊治郎 釧路	木幡 磁郎 旭川 信成 熊治郎 釧路 五十嵐 清 札幌	木幡 磁郎 旭川 信成 熊治郎 釧路 伊東 喜左衛門 札幌	木幡 磁郎 旭川 信成 熊治郎 釧路 伊東 喜左衛門 札幌	木幡 磁郎 旭川 信成 熊治郎 釧路 伊東 喜左衛門 札幌
理事	関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 加茂 敏夫 陸自帯広	関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 本名 喜志夫 旭川自 井上 明久 陸自帯広	関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 芳賀 甲正 旭川自 阿部 寅雄 陸自帯広 佐藤 喜四郎 北恵庭	五十嵐 長寿 函館 関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 岡部 忠孝 旭川自 箭内 利通 陸自帯広 佐藤 喜四郎 北恵庭 菅野 定信 岩見沢 斎藤 輝雄 南恵庭	五十嵐 長寿 函館 関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 岡部 忠孝 旭川自 箭内 利通 陸自帯広 佐藤 喜四郎 北恵庭 菅野 定信 岩見沢 斎藤 輝雄 南恵庭	五十嵐 長寿 函館 関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 大内 省三 別海 岡部 忠孝 旭川自 箭内 利通 陸自帯広 佐藤 喜四郎 北恵庭 菅野 定信 岩見沢 斎藤 輝雄 南恵庭
監事	菅野 定信 岩見沢 佐藤 喜四郎 北恵庭 山内 英一 札幌	菅野 定信 岩見沢 佐藤 喜四郎 北恵庭 山内 英一 札幌	菅野 定信 岩見沢 斎藤 輝雄 南恵庭 山内 英一 札幌	柳田 三郎 浜中 生方 義八 紋別 森谷 武 名寄	柳田 三郎 浜中 生方 義八 紋別 森谷 武 名寄	柳田 三郎 浜中 生方 義八 紋別 森谷 武 名寄

年度	S60. 5	S62. 5	H元. 5	H3. 6	H4. 5	H5. 5
顧問						
会長	森口 松太郎 札幌	森口 松太郎 札幌	森口 松太郎 札幌	森口 松太郎 札幌	森口 松太郎 札幌	梅津 一四郎 旭川
副会長	信成 熊治郎 釧路 梅津 一四郎 旭川 五十嵐 長寿 函館	信成 熊治郎 釧路 梅津 一四郎 旭川 五十嵐 長寿 函館	信成 熊治郎 釧路 梅津 一四郎 旭川 五十嵐 長寿 函館	梅津 一四郎 旭川 五十嵐 長寿 函館 柳田 三郎 浜中	梅津 一四郎 旭川 柳田 三郎 浜中 上田 小八重 函館	柳田 三郎 浜中 上田 小八重 函館 宮田 久雄 小樽
理事	関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 鹿野 喜一 別海 柳田 三郎 浜中 生方 義八 紋別 加藤 高明 旭川自 橋谷田 照吉 帯広駐 出崎 真明 北恵庭 斎藤 輝雄 南恵庭 大村 貞男 名寄 相楽 喜久雄 稚内 猪狩 寿太郎 弟子屈	関根 清 小樽 筒井 五三郎 帯広 橋本 千代寿 別海 柳田 三郎 浜中 斎藤 常次 紋別 加藤 高明 旭川駐 橋谷田 照吉 帯広駐 佐藤 喜四郎 北恵庭 大村 貞男 名寄 相楽 喜久雄 稚内 渡辺 保 弟子屈 高木 秀邦 千歳	鈴木 好行 小樽 筒井 五三郎 帯広 橋本 千代寿 別海 柳田 三郎 浜中 斎藤 常次 紋別 加藤 高明 旭川駐 斎藤 輝雄 恵庭 大村 貞男 名寄 相楽 喜久雄 稚内 渡辺 保 弟子屈 高木 秀邦 千歳	宮田 久雄 小樽 筒井 五三郎 帯広 橋本 千代寿 別海 桑原 清 釧路 斎藤 常次 紋別 星 英治 旭川駐 斎藤 輝雄 恵庭 相楽 喜久雄 稚内 渡辺 保 弟子屈 高木 秀邦 千歳 小国 清三 朝日町	宮田 久雄 小樽 筒井 五三郎 帯広 橋本 千代寿 別海 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 星 英治 旭川駐 長谷川 顕 稚内 渡辺 保 弟子屈 斎藤 輝雄 恵庭 高木 秀邦 千歳 小国 清三 朝日町 水野 実 余市	筒井 五三郎 帯広 橋本 千代寿 別海 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 星 英治 旭川駐 長谷川 顕 稚内 渡辺 保 弟子屈 斎藤 輝雄 恵庭 高木 秀邦 千歳 小国 清三 朝日町 水野 実 余市 宗像 捨男 札幌
監事	小国 清三 朝日町 水野 実 余市 河野 嘉平 札幌	小国 清三 朝日町 水野 実 余市 河野 嘉平 札幌	小国 清三 朝日町 水野 実 余市 河野 嘉平 札幌	水野 実 余市 河野 嘉平 札幌 今野 豊 苫小牧	河野 嘉平 札幌 今野 豊 苫小牧 橋本 幸夫 美幌	今野 豊 苫小牧 橋本 幸夫 美幌 井上 専治 札幌

年度	H7. 5	H9. 5	H11. 5	H12. 2	H13. 5	H14. 5
顧問				梅津 一四郎 旭川	梅津 一四郎 旭川	梅津 一四郎 旭川
会長	梅津 一四郎 旭川	梅津 一四郎 旭川	上田 小八重 函館	上田 小八重 函館	上田 小八重 函館	上田 小八重 函館
副会長	柳田 三郎 浜中 上田 小八重 函館 斎藤 輝雄 恵庭	柳田 三郎 浜中 上田 小八重 函館 斎藤 輝雄 恵庭	柳田 三郎 浜中 斎藤 輝雄 恵庭 長谷川 顕 稚内	斎藤 輝雄 恵庭 長谷川 顕 稚内 菅野 達真 別海	斎藤 輝雄 恵庭 長谷川 顕 稚内 菅野 達真 別海	斎藤 輝雄 恵庭 長谷川 顕 稚内 菅野 達真 別海
理事	橋本 千代寿 別海 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 長谷川 顕 稚内 高木 秀邦 千歳 今野 豊 苫小牧 橋本 幸夫 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌	橋本 千代寿 別海 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 長谷川 顕 稚内 高木 秀邦 千歳 今野 豊 苫小牧 橋本 幸夫 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌 樋川 清七 弟子屈	梅津 一四郎 旭川 菅野 達真 別海 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 高木 秀邦 千歳 宍戸 政直 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌 樋川 清七 弟子屈	小野 一郎 旭川 伊藤 秀麻 浜中 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 高木 秀邦 千歳 宍戸 政直 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌	小野 一郎 旭川 伊藤 秀麻 浜中 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 高木 秀邦 千歳 宍戸 政直 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌	小野 一郎 旭川 伊藤 秀麻 浜中 桑原 清 釧路 原田 平 紋別 木内 將一 千歳 宍戸 政直 美幌 櫛田 久雄 小樽 菅野 勉吉 札幌
監事	佐野 政光 帯広 樋川 清七 弟子屈 井上 専治 札幌	佐野 政光 帯広 小林 栄蔵 標茶 井上 専治 札幌	小林 栄蔵 標茶 新田 正雄 帯広 今野 豊 苫小牧	小林 栄蔵 標茶 新田 正雄 帯広 大内 清治 苫小牧	小林 栄蔵 標茶 新田 正雄 帯広 大内 清治 苫小牧	新田 正雄 帯広 大内 清治 苫小牧

福島県人会北海道連合会　歴代役員一覧

年度	H15. 5	H16. 5	H17. 5	H18. 5	H19. 5	H20. 5
顧問	梅津　一四郎　旭川	梅津　一四郎　旭川 上田　小八重　函館	梅津　一四郎　旭川 上田　小八重　函館	梅津　一四郎　旭川 上田　小八重　函館	梅津　一四郎　旭川 上田　小八重　函館	梅津　一四郎　旭川 上田　小八重　函館
会長	長谷川　顕　稚内	長谷川　顕　稚内	長谷川　顕　稚内	長谷川　顕　稚内	長谷川　顕　稚内	長谷川　顕　稚内
副会長	菅野　達真　別海 宍戸　政直　美幌 大内　清治　苫小牧	菅野　達真　別海 宍戸　政直　美幌 大内　清治　苫小牧	宍戸　政直　美幌 大内　清治　苫小牧 小野　一郎　旭川	宍戸　政直　美幌 小野　一郎　旭川	宍戸　政直　美幌 小野　一郎　旭川 熊坂　成剛　函館	宍戸　政直　美幌 小野　一郎　旭川 熊坂　成剛　函館
理事	菅野　勉吉　札幌 桑原　清　釧路 上田　小八重　函館 小野　一郎　旭川 伊藤　秀麻　浜中 原田　平　紋別 木内　將一　千歳	菅野　勉吉　札幌 桑原　清　釧路 熊坂　成剛　函館 小野　一郎　旭川 伊藤　秀麻　浜中 原田　平　紋別 木内　將一　千歳	菅野　勉吉　札幌 桑原　清　釧路 熊坂　成剛　函館 伊藤　秀麻　浜中 原田　平　紋別 千葉　常雄　別海 只野　覚　恵庭	菅野　勉吉　札幌 桑原　清　釧路 熊坂　成剛　函館 草野　藤夫　浜中 渡辺　忠助　紋別 千葉　常雄　別海 只野　覚　恵庭 神野　修　苫小牧	菅野　勉吉　札幌 草野　藤夫　浜中 渡辺　忠助　紋別 只野　覚　恵庭 神野　修　苫小牧 高玉　紀男　帯広	菅野　勉吉　札幌 草野　藤夫　浜中 渡辺　忠助　紋別 神野　修　苫小牧 高玉　紀男　帯広 白石　政司　別海
監事	新田　正雄　帯広 富永　恭輔　恵庭	新田　正雄　帯広 富永　恭輔　恵庭	新田　正雄　帯広 木内　將一　千歳	新田　正雄　帯広 木内　將一　千歳	木内　將一　千歳 千葉　常雄　別海	木内　將一　千歳

年度	H21. 5	H22. 5	H23. 4	H24. 5	H25. 6	H26. 6
顧問	上田　小八重　函館	上田　小八重　函館	上田　小八重　函館	上田　小八重　函館	上田　小八重　函館	
会長	熊坂　成剛　函館	熊坂　成剛　函館	熊坂　成剛　函館	熊坂　成剛　函館	神野　修　苫小牧	神野　修　苫小牧
副会長	木内　將一　千歳 神野　修　苫小牧 渡辺　忠助　紋別	木内　將一　千歳 神野　修　苫小牧 渡辺　忠助　紋別	金子　民男　旭川 木内　將一　千歳 神野　修　苫小牧	金子　民男　旭川 木内　將一　千歳 神野　修　苫小牧	金子　民男　旭川 木内　將一　千歳 田中　四郎　札幌	金子　民男　旭川 木内　將一　千歳 田中　四郎　札幌
理事	長谷川　顕　稚内 菅野　勉吉　札幌 打地　健一　美幌 高玉　紀男　帯広 天野　登恵　浜中	長谷川　顕　稚内 寺脇　弘晋　札幌 打地　健一　美幌 天野　登恵　浜中	打地　健一　美幌 天野　登恵　浜中 一條　木　稚内 青田　輝智　紋別	近藤　康弘　美幌 天野　登恵　浜中 一條　木　稚内 青田　輝智　紋別	熊坂　成剛　函館 天野　登恵　浜中 一條　木　稚内 青田　輝智　紋別	熊坂　成剛　函館 天野　登恵　浜中 一條　木　稚内 青田　輝智　紋別
監事	金子　民男　旭川 白石　政司　別海	金子　民男　旭川 白石　政司　別海	寺脇　弘晋　札幌 白石　政司　別海	田中　四郎　札幌 白石　政司　別海	白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌	白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌

年度	H27. 6	H28. 5	H29. 5	H30. 5	R1. 5	R2. 5
顧問		熊坂　成剛　函館	熊坂　成剛　函館			
会長	神野　修　苫小牧	神野　修　苫小牧	田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌
副会長	金子　民男　旭川 木内　將一　千歳 田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌 白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌	白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌	白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌	近藤　康弘　美幌 小山　直子　函館	近藤　康弘　美幌 小山　直子　函館
理事	小山　直子　函館 天野　登恵　浜中 一條　木　稚内 青田　輝智　紋別	青田　輝智　紋別 佐藤　貞夫　旭川 五島　洋子　千歳 阿部　勇　稚内	神野　修　苫小牧 佐藤　貞夫　旭川 五島　洋子　千歳	神野　修　苫小牧 佐藤　貞夫　旭川 五島　洋子　千歳	神野　修　苫小牧 白石　政司　別海 佐藤　貞夫　旭川 五島　洋子　千歳	神野　修　苫小牧 白石　政司　別海 佐藤　貞夫　旭川 五島　洋子　千歳
監事	白石　政司　別海 近藤　康弘　美幌	小山　直子　函館 天野　登恵　浜中	小山　直子　函館 天野　登恵　浜中	小山　直子　函館 天野　登恵　浜中	天野　登恵　浜中 五島　洋子　千歳	天野　登恵　浜中 五島　洋子　千歳

年度	R3. 5	R4. 5	R5. 5
顧問	田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌	田中　四郎　札幌
会長	近藤　康弘　美幌	近藤　康弘　美幌	近藤　康弘　美幌
副会長	小山　直子　函館 佐藤　貞夫　旭川	小山　直子　函館 佐藤　貞夫　旭川	小山　直子　函館 佐藤　貞夫　旭川
理事	神野　修　苫小牧 白石　政司　別海	白石　政司　別海 渡辺　健治　苫小牧	白石　政司　別海 船山　一　札幌
監事	五島　洋子　千歳 稲村　宗彦　札幌	五島　洋子　千歳 稲村　宗彦　札幌	五島　洋子　千歳 渡辺　健治　苫小牧

発行　福島県人会北海道連合会事務局

〒０６０－０００１
北海道札幌市中央区北一条西二丁目２－１
北海道経済センター５階（福島県北海道事務所内）
TEL　０１１－２４１－８７１７
FAX　０１１－２４１－８７１９

※過去の県人会だよりはこちらから